

基本資料集

2026年5月14日

構成

1

I 基礎情報

- (1) 施設概要
- (2) 機能と役割
- (3) 職員数
- (4) 維持管理体制
- (5) 地域の担い手

III 気候変動

- (1) 植物の成長メカニズム
- (2) 気候変動
- (3) 最近の植生
- (4) 温暖化による変化

V 除草の情報

- (1) 定義
- (2) 面積
- (3) 考え方
- (4) 回数と時期
- (5) 予算・決算
- (6) コスト推移

II 雑草の情報

- (1) 定義
- (2) 種類
- (3) 影響と課題
- (4) 除草後の状況

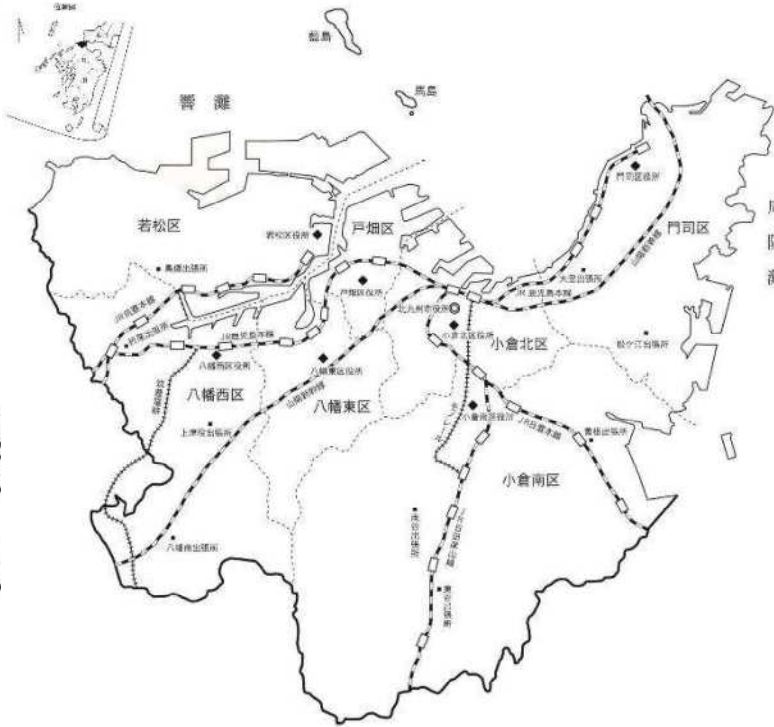
IV 市民のこえ

- (1) 要望件数と内容の例示
- (2) 市民のこえの分析

VI 防草の情報

- (1) 定義
- (2) 考え方
- (3) 防草の種類
- (4) これまでの取組み
- (5) 令和6年度防草費
- (6) 防草可能面積

I 基礎情報 (1) 施設概要



北九州市域面積：	492.5 km ²
(うち市街化区域)	203.2 km ²
○道路：	総延長 4,252.9 km
	路線数 20,746本
	総面積 32.3 km ²
○河川：	総延長 320.3 km※
	河川数 246本
○公園：	総面積 12.0 km ²
	公園数 1,719か所

※江川（一級）、紫川（二級）ほか19河川は県の管理

I 基礎情報 (2) 機能と役割

- ✓ 道路・河川・公園は都市インフラとして、都市の機能と住民の生活を支え、地域の骨格と景観をかたちづくり、安全・環境・交流の基盤となる施設です。
- ✓ 代表的な機能と役割は、以下のとおりです。

経済活動の基盤

雇用の創出

生活の利便性の向上

防災機能

自然とのふれあいの場

生物多様性の保全

文化・交流の促進

住民の憩いの場

考察 → 都市インフラは、維持管理まで含め、Well-beingのために欠かせない。

区分	条例定数	職員数			対前年増減数			対前年の主な増減理由 (令和7年)
		令和5年	令和6年	令和7年	令和5年	令和6年	令和7年	
市長事務部局	5,340	5,037	5,017	4,979	▲29	▲20	▲38	(増員の理由) ・区役所の機能強化 ・国勢調査に向けた体制強化 ・児童虐待防止に向けた体制強化 ・DX推進に向けた体制強化 他 (減員の理由) ・組織機構等の見直し ・政策連携団体等への派遣見直し ・市立幼稚園の閉園 他
消防局	1,050	996	988	1,001	▲5	▲8	13	
上下水道局	530	481	486	477	▲10	5	▲9	
交通局	80	61	64	65	▲2	3	1	
公営競技局	45	40	40	40	4	0	0	
市議会事務局	44	30	26	31	0	▲4	5	
教育委員会	500	441	430	400	▲11	▲11	▲30	
行政委員会	71	58	55	55	▲2	▲3	0	
小計	7,660	7,144	7,106	7,048	▲55	▲38	▲58	
教育委員会(教職員)	5,250	4,767	4,729	4,750	23	▲38	21	
合計	12,910	11,911	11,835	11,798	▲32	▲76	▲37	

考察 → 職員数は、年々減少しており、本市においても人員が不足している。

区分	職員数		対前年増減数	主な増減理由	
	令和6年	令和7年			
一般行政部門	議会	26	31	5	
	総務	1,002	1,021	19	区役所の機能強化等
	税務	333	347	14	
	労働	21	19	▲2	
	農林水産	83	74	▲9	鳥獣被害対策における体制見直し等
	商工	154	160	6	EV・半導体・宇宙産業等の推進等
	土木	967	943	▲14	整備事務所の体制見直し等
	民生	1,304	1,298	▲6	低所得世帯への給付金支給体制見直し等
	衛生	777	779	2	
小計	4,657	4,672	15		
特別行政部門	教育	619	576	▲43	市立幼稚園の閉園等
	教育(教職員)	4,729	4,750	21	採用人数の増
	消防	988	1,001	13	
公営企業会計部門等	小計	6,336	6,327	▲9	
	病院	0	0	0	
	水道	324	314	▲10	浄水所の体制見直し等
	交通	64	65	1	
	下水道	138	140	2	
	その他	316	280	▲36	
小計	842	799	▲43		
合計	11,835 [12,910]	11,798 [12,910]	▲37 [0]		

(注) []内は、条例定数の合計です。

考察 → 職員数の減少は、部門別にみても土木区分において進んでいる。

I 基礎情報 (4) 維持管理体制 1. 概要

6

✓ 7つの区役所まちづくり整備課で道路・河川・公園を維持管理している。

【補足】管理係と工務係の違い

- ・管理係 → 許可行為や指導を担当（事務職）
- ・工務係 → 補修設計や工事を担当（技術職）

項目		合計	門司区	小倉北区	小倉南区	若松区	八幡東区	八幡西区	戸畑区	
課	課長	7名	7名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	
管理係	管理係	62名	47名	6名	6名	7名	6名	9名	9名	4名
	管理担当係		15名		5名	5名			5名	
工務係	工務係	102名	25名	7名			6名	5名		7名
	工務第一係		30名		9名	10名			11名	
	若戸大橋管理係		3名							3名
	工務第二係		28名		8名	10名			10名	
	公園・河川担当係		16名	4名			6名	6名		
合計		171名	18名	29名	33名	19名	21名	36名	15名	

I 基礎情報 (4) 維持管理体制 2. 職員数

7

✓ 7つの区役所まちづくり整備課で総勢171名

✓ 事務職56名、技術職（土木・造園など）115名

区役所	合計	課長 (技術)	係長		職員			技術職員 担当内訳				
			(事務)	(技術)	(事務)	(技術)	管理	道路	河川	公園		
門司区	18名	1名	3名	1名	2名	14名	4名	10名	1名	6名	1名	2名
小倉北区	29名	1名	4名	1名	3名	24名	9名	15名		8名	3名	4名
小倉南区	33名	1名	4名	1名	3名	28名	9名	19名	1名	9名	5名	4名
若松区	19名	1名	3名	1名	2名	15名	5名	10名		5名	2名	3名
八幡東区	21名	1名	3名	1名	2名	17名	8名	9名		4名	2名	3名
八幡西区	36名	1名	4名	1名	3名	31名	11名	20名	1名	10名	4名	5名
戸畑区	15名	1名	3名	1名	2名	11名	3名	8名		5名	1名	2名
合計	171名	7名	24名	7名	17名	140名	49名	91名	3名	47名	18名	23名

考察 → 維持管理の多くは、民間事業者への委託により実施しているが、業界における人手不足や高齢化の影響で、民間事業者の確保も難しい。



考察 → 場所に応じて、様々なボランティア活動支援制度を創立している。

施設	道路		公園 (公共空間等)						河川	
	①道路サポーター制度	②道路ボランティア花壇	③公園愛護会	④公園応援団	花咲く街かどづくり事業					
項目	⑤市民花壇	⑥花壇サポーター	⑦パートナー花壇	⑧北九州市フラワーコーディネーター制度	⑨河川愛護団体					
活動内容	道路の清掃、花植え、 除草	花植え	公園の清掃や 除草	公園の清掃や 除草	花苗植付、維持管理等	花壇への水やり、花がら摘み、 草抜き など、きめ細かい管理	花苗等の準備から、植付、管理	花づくりの出張指導等を行う花のボランティアリーダー	河川の清掃、 除草 、河川愛護の啓発	
適用条件	対象	自治会、団体、企業、学校等	市民等	自治会、団体、企業、学校	北九州市内に本社等を有し、市内で事業している企業、団体	「花咲く街かどづくり推進協議会」に入会した団体又は個人	個人、団体、企業等	個人、団体、企業等	北九州市内在住、在勤、在学の18歳以上の個人	自治会、団体、企業、学校等
	活動場所	北九州市が管理する道路 ※中央分離帯は除く	自宅前歩道の植樹帯や植樹樹	北九州市内の公園	公園愛護会が活動していない公園又は公園愛護会の同意がある公園	・多くの人が鑑賞できる場所にある公有地の花壇 ・概ね4m以上の公衆道路に接し、極めて公共性の高い既有地の花壇	会社やお店の前に設置している公共花壇	北九州市が提供する公共の場所で、通行上支障がなく、安全性を考慮した、効果的な場所	学校、地域、行政からの依頼に応じ花づくりの出張指導	北九州市が管理する河川等
構成人数	5人以上	1人から可能	少なくとも5人程度	少なくとも5人程度	3名以上を推奨	指定なし	指定なし	—	10人以上	
活動規模	100m以上	指定なし	1公園	1公園	・花壇は2m以上 ・フラワーポット5基以上	—	・花壇は5m ・フラワーポット5基以上	—	200m以上	

河川愛護団体は地域の皆さんによる河川の清掃や除草を行うボランティア団体です。
河川の清掃や環境整備などをお手伝いして下さる方を募集しています。

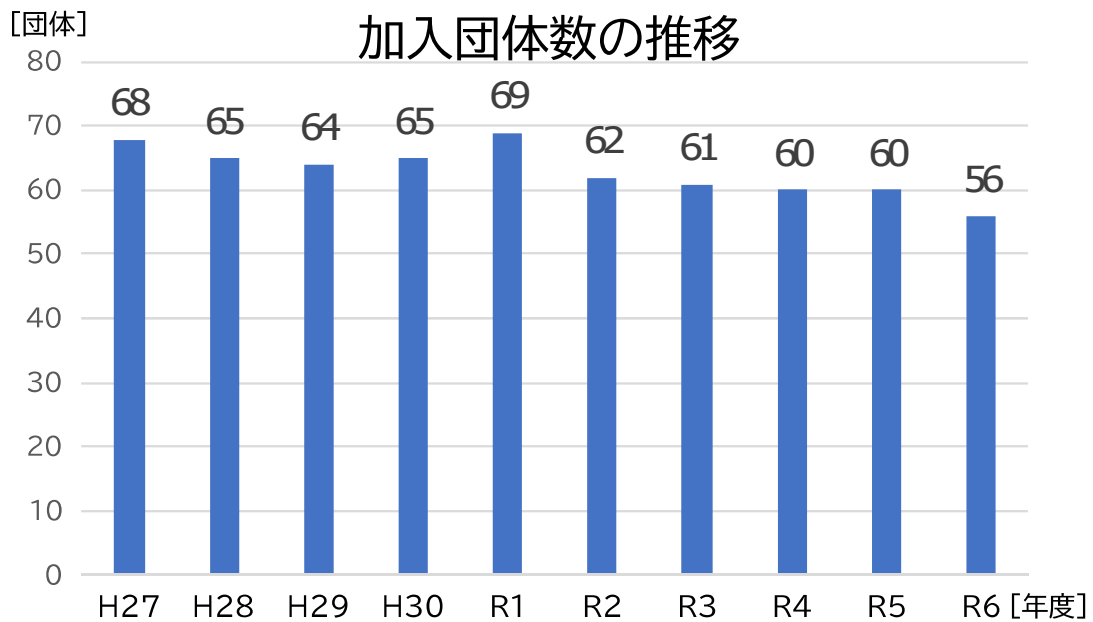
活動内容

- 河川の清掃や除草などの美化活動
- 河川愛護思想の啓発普及を行う



支援制度(河川愛護団体補助金)

河川清掃等の活動を行う団体(少なくとも10名以上)に対して、活動延長に応じた「補助金」を交付します。



考察 → 河川愛護団体の加入者団体数は、近年（R 1以降）、減少している。

公園愛護会は、少なくとも10名程度の地域の皆さまで組織されるボランティア団体です。

制度紹介

公園愛護会の制度についてご紹介します。

1. 活動内容

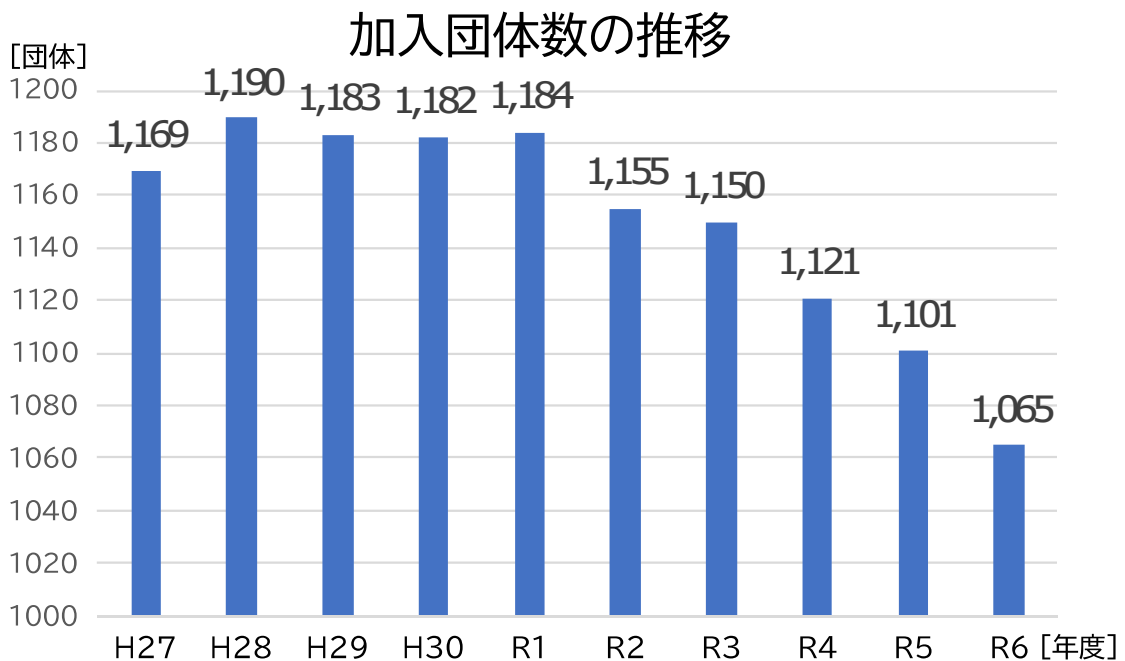
- 公園の清掃や除草などの美化活動
- 公園を利用した市民花壇づくり
- 公園樹の簡単な剪定
- 公園施設の点検や禁止行為の連絡
- 公園利用者のマナー啓発



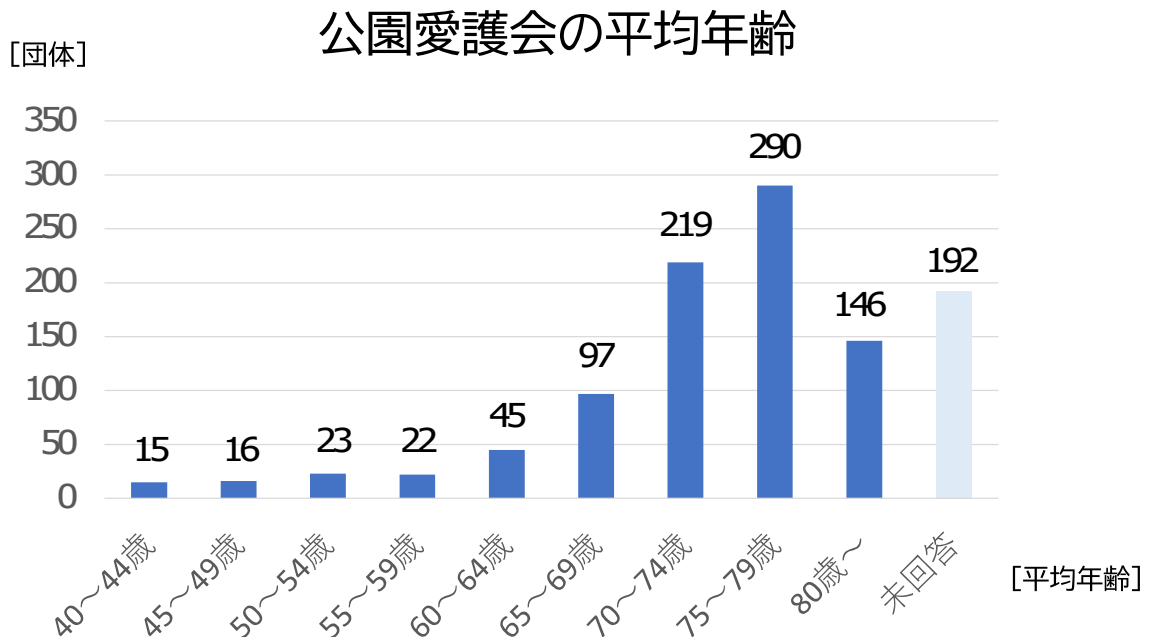
その他「地域」及び「区」に愛護会の連合会組織を結成し、市との連絡調整等を行っています。

2. 支援内容

皆さまの愛護活動に対して、活動面積に応じた「助成金」を交付しています。



考察 → 公園愛護会の加入者団体数は、H28を境に、減少している。



考察 → 公園愛護会員は高齢者が86%を占める。

II 雑草の情報 (1) 定義

【定義】 道路・河川・公園それぞれに求められる役割に反し、本来の機能や管理者の意図を損なう形で繁茂する草本類

考察 → 「除草剤の創製研究からみた雑草学と雑草管理」（2002萩本）には、雑草の定義について「人類の使用する土地に発生して人類に損害を与える植物」のほか、いくつか紹介されているが、一方で「日本の植物学の父」の呼ばれた牧野富太郎博士（1862－1957）は「雑草という植物は存在しない」という言葉を残している。

例えば、「チガヤ」は、道路では伸びすぎると視認性を阻害し安全を損なう代表的な雑草であるが、河川では法面の浸食防止や緑化、生物多様性の保全に寄与する有用な在来種として扱われる。このように、雑草とは植物の種によって決まるものでもなく、その場所で求められる役割（安全性や健全な環境維持など）に合っているか、という関係性によって決まるものである。

したがって、ここでは「都市インフラの機能と役割の阻害要因」となることを前提に、上記のように定義する。

【種類】 「雑草管理者のための雑草の識別と調査の基礎」 2018浅井から抜粋

表1 日本の主要な畑地、緑地の雑草とその種類

分類群	一年生		冬生		多年生	
	夏生	冬生	夏生	冬生	地上部常緑	地下部常緑
北日本 イネ科	アキエノコログサ <i>Alopecurus</i>					コヌカグサ <i>Ageron</i>
広葉 双子葉 合併	アキエノコログサ <i>Alopecurus</i>					シバムギ <i>Cyrtopus</i>
	ナキナタクウジ <i>Echinochloa</i>				ジシバリ類 ¹⁾ <i>Aster</i>	ハチジョウナ ²⁾ <i>Sonchus</i> エノキツツアザミ ³⁾ <i>Achillea</i> キレハイスガラシ ⁴⁾ <i>Rubiacae</i> ヒメスイバ ⁵⁾ <i>Rumex</i>
関東以西 雑草 ほぼ全国	オオツメクサ ⁶⁾ <i>Alopecurus</i>					
	タニシバ ⁷⁾ <i>Phalaris</i>					
	ソバカズラ ⁸⁾ <i>Polygonum</i>					
	メヒシバ <i>Digitaria</i>	スズメノカタビラ ⁹⁾ <i>Poa</i>		イヌムギ <i>Hordeum</i>	キシユウスズメヒエ <i>Paspalum</i>	チガヤ ¹⁰⁾ <i>Imperata</i>
	イヌビエ <i>Echinochloa</i>	ネズミムギ <i>Lolium</i>		カモジグサ <i>Elymus</i>		セイバシモロコシ ¹¹⁾ <i>Sorghum</i>
オヒシバ <i>Echinochloa</i>	スズメノカタビラ ⁹⁾ <i>Poa</i>		ススキ <i>Miscanthus</i>		ヨシ <i>Phragmites</i>	
エノコログサ <i>Alopecurus</i>	カラスノコギ <i>Stachytarax</i>		シマズメヒエ <i>Pennisetum</i>			
アヒダマ <i>Lactuca</i>	カラスムギ <i>Alopecurus</i>		チカラシバ ¹²⁾ <i>Pennisetum</i>			
			メリケンカルカヤ <i>Andropogon</i>			
カヤツリグサ科	カヤツリグサ、コゴメカヤツリ <i>Cyperus</i>					ハマスゲ、シバクヨウカヤツリ <i>Cyperus</i> ヒメグサ類 <i>Cyperus</i>
広葉 双子葉 合併	ツユクサ <i>Cymopterus</i>			カラスビシヤク <i>Phacelia</i>		
	イヌホオズキ類 ¹³⁾ <i>Solanum</i>	ハハコグサ ¹⁴⁾ <i>Gratiola</i>		タンポポ科 ¹⁵⁾ <i>Asteraceae</i>	ヘクソカズラ ¹⁶⁾ <i>Ranunculus</i>	ハルジオン ¹⁷⁾ <i>Erigeron</i>
	アザミ科 ¹⁸⁾ <i>Asteraceae</i>	ヒメジョオン ¹⁹⁾ <i>Sonchus</i>		オオバコ ²⁰⁾ <i>Phacelia</i>		セイタカアワダチソウ ²¹⁾ <i>Solidago</i>
	ブタクサ ²²⁾ <i>Ambrosia</i>	ヒメムカシヨモギ、オオアレチノギク ²³⁾ <i>Cirsium</i>				ヨモギ ²⁴⁾ <i>Aster</i>
	トキンソウ ²⁵⁾ <i>Conyza</i>	ノギシ類 ²⁶⁾ <i>Sonchus</i>				ヨメナ ²⁷⁾ <i>Aster</i>
	輪化アザミ科 ²⁸⁾ <i>Asteraceae</i>	ノボロギク ²⁹⁾ <i>Sonchus</i>				オオバコ ²⁰⁾ <i>Phacelia</i>
	タカノゾウ ³⁰⁾ <i>Hydrisis</i>	オオイスノフグ ³¹⁾ <i>Vernonia</i>				コルコガサ、ヒルガオ ³²⁾ <i>Galinsoga</i>
		オオケナガサ ³³⁾ <i>Lambium</i>				ワルナシ ³⁴⁾ <i>Elymus</i>
		ヤエムグラ <i>Galium</i>				
		ナズナ ³⁵⁾ <i>Capitata</i>		イヌガラシ ³⁶⁾ <i>Rapissa</i>	シロツメクサ ³⁷⁾ <i>Crabium</i>	イタドリ ³⁸⁾ <i>Achyrocline</i>
雑草	イヌカタ、ハルカタ、オオイスナ ³⁹⁾ <i>Panicum</i>	タネツクサ ⁴⁰⁾ <i>Carduus</i>	ギシギシ類、スイバ ⁴¹⁾ <i>Rumex</i>	カガミ <i>Eleocharis</i>	ヒメスイバ ⁵⁾ <i>Rumex</i>	
	ヒキヤナギ ⁴²⁾ <i>Rubus</i>	オランダミミナグサ ⁴³⁾ <i>Chenopodium</i>	ムラサキカタハシ <i>Dryas</i>	サドメグサ類 <i>Hydrocotyle</i>	ドクダミ <i>Asplenium</i>	
	シロギ、コアカザ ⁴⁴⁾ <i>Chenopodium</i>	ノミノフスマ、コハコベ ⁴⁵⁾ <i>Stellaria</i>		ヘビイチゴ <i>Duchesnea</i>	ヤブカラシ ⁴⁶⁾ <i>Cyrtopus</i>	
	ヒヨドリ <i>Amaranthus</i>	カラクサナズナ ⁴⁷⁾ <i>Cerastium</i>				
	エノキグサ ⁴⁸⁾ <i>Aralia</i>	カラスノエンドウ ⁴⁹⁾ <i>Vicia</i>				
	スベリヒユ <i>Portulaca</i>	アメリカワウロ <i>Geranium</i>				
	ザクソウ <i>Melastoma</i>					
	コシキソウ ⁵⁰⁾ <i>Chamaecrista</i>					
シダ類						ワラビ <i>Pteridium</i> スギナ <i>Equisetum</i>

数字は転送用など畑地条件で出現が多い種類。*は風乾り型種子を持つ一年生植物で、播種の水溶性が低いもの。#はつる性植物。上付き文字は、1キク科、2シソ科、3マメ科、4アブラナ科、5ナデシコ科、6タデ科、7ヒユ科、8ナス科、9クワダグサ科、10オオバコ科。

【分類】 三井化学クロップ&ライフソリューション株式会社HPより抜粋

- ・ 難防除雑草：防除の困難な雑草
- ・ 一年生雑草：一年以内に生活環が完了する雑草
- ・ 多年生雑草：生育期間が2年以上にわたる雑草

考察 → 「雑草」の種類や分類は、学術的にも多岐にわたり、目的等に応じて、適材適所で適切な対策にアプローチする必要がある。

✓ チガヤ



5月から6月頃に、白い毛で覆われた特徴的な円筒形の花穂を出し、綿毛のついた種子を散布する。地下茎による繁殖力が非常に強く、道路等では防除が難しい雑草とされているが、「古くから風土記、万葉集、徒然草など多数の古典に詠まれている我々になじみの深い植物」(※1)であり、紫川の斜面でも在来種の緑化植物として利用されている。

※1 下線部及び写真の出典：兵庫県立農林水産技術総合センターウェブサイト「在来種「チガヤ」を緑化植物として利用する」

✓ セイバンモロコシ



ヨーロッパ・中東原産の多年草。春に地下茎から芽を出し、初夏から夏にかけて急激に成長して2m近くまで背丈を伸ばし繁茂。特に盛夏(7月~9月頃)に最も旺盛に生育し、秋(8月~10月頃)に赤紫色を帯びた穂をつける。再生力が非常に強く、刈り取ってもすぐに再生する性質がある。

✓ セイタカアワダチソウ



北アメリカ原産の多年草。繁茂時期は4月から11月ごろで、特に草丈が大きく伸びて群落を形成するのは夏から秋にかけての時期。開花時期は10月から11月。アレロパシー(※2)を有する。非常に順応性が高く、高温乾燥条件に対して高い耐性を持っている。

※2 植物が特定の化学物質を放出することによって、周囲の他の植物や微生物の成長、発芽、生存に影響を与える現象のこと

考察

→ 北九州市においても、上記3種を含め、多種多様な雑草が見られる。

✓ 車からの視認性を阻害



✓ まちの印象の悪化

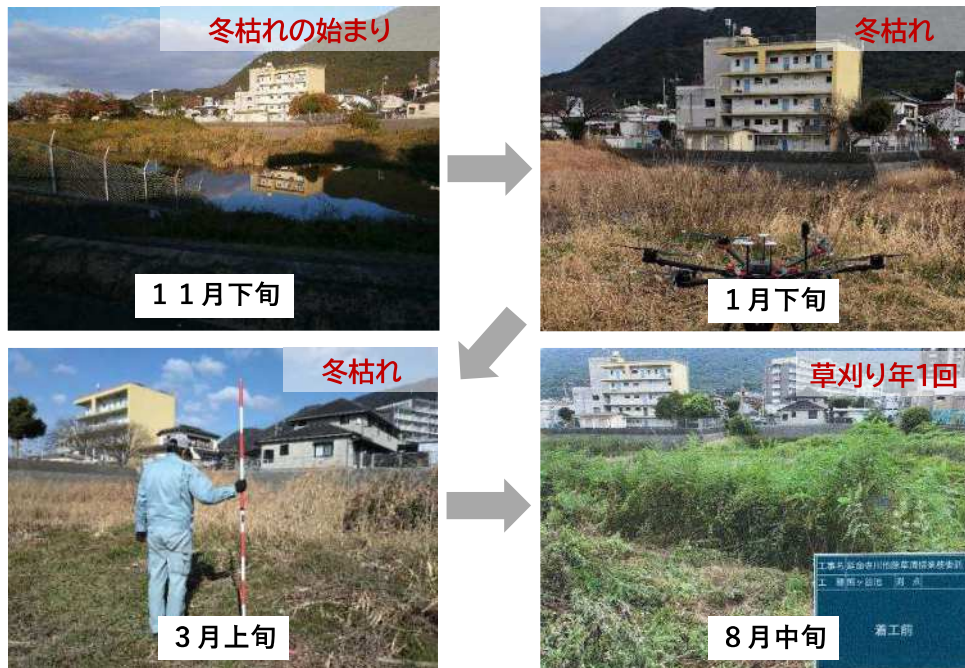


考察

→ 雑草は単なる景観的な問題ではなく、交通安全や治安維持、緑化植物の生育、衛生害虫など人の健康にも波及する。

II 雑草の情報 (4) 除草後の状況 1. サイクル

22



考察 → 冬枯れの時期を除き、一年の大半は、雑草の問題を抱える。

II 雑草の情報 (4) 除草後の状況 2. 成長速度

23



考察 → 雑草は、草刈り後1ヶ月も経過すれば、「繁茂」と言える状態になる。